

2007 年度後期 マクロ経済分析 (月3+木1)

注意： 10/4は休講です。8日は祝日ですので、第2回の講義は11日です。

担当者

- ・ 講師 堀井 亮 内線 4272
研究室は経済本館5階 階段 or エレベータを上がって左手です。
- ・ TA 劉 穎男
資料・宿題提出等に関しては TA に連絡してください。

目的

本授業では学部標準レベルのマクロ経済学を講義する。コアとなるのは

- ・ 一国全体の経済がどのように動いているのか
- ・ 短期・中期・長期におけるマクロ経済変数の決定要因
- ・ 財政・金融政策の効果

発展的内容として以下のトピックを考える。

- ・ 不況・デフレ or 高インフレはなぜ起こるのか
- ・ 期待がマクロ経済に与える効果
- ・ 外国経済との関わりが日本経済に与える効果

教科書

MIT のブランシャール教授が書いた **Macroeconomics**(マクロ経済学)を使います。英語版・日本語版のいずれかを入手してください。英語版の方がデータ等が新しいので、授業では英語版をベースに講義します(もちろん日本語で解説します)。日本語第1版、英語第4版で内容は大きく変わりませんが、章立てが変わっていますので対応を後述します。

[英語版(最新第4版)]

Blanchard, Olivier “Macroeconomics 4th ed (International Edition)”,
Pearson Education South Asia Pte. Ltd.; SINGAPORE, 2006

- 現地価格\$43 ですので、日本価格 6000 円台で大学生協(川内店書籍部)に入荷する予定です。今週木曜日に少数(2冊程度)入荷しますが、希望者があればさらに追加入荷することです。見あたらなければ店員に問い合わせてください。なお、アマゾン等で購入すると International 版ではなくアメリカ版になるので2万円近くします。

[日本語版(第1版)]

オリヴィエ・ブランシャール著(鴫田他訳)

- 「ブランシャール マクロ経済学 上」「ブランシャール マクロ経済学 下」東洋経済
● 各 3990,4200 円ですので合計すると英語版よりやや高いですが、生協にすでに入荷しています。授業では上下巻共に使います。

授業の進め方

基本的に教科書に沿って進めます。第1版（日本語版）・第4版（英語版）で章の並び方が異なりますが、第4版のほうが整理されていますので、授業での順序は第4版（英語版）に準じます。授業1～2回で1章をカバーすることを目標とします。

シラバスには板書によると記載しましたが、今年度はプロジェクタを用いて power point のスライドファイルを投影する方式で行います。スライドの内容は原著テキストの補助教材として用意されたものに、適宜日本のデータ等を補足したものです。教材のオリジナルは英語ですが、最初のうちは和訳して投影する予定です。経済用語については、日本語・英語併記とします（日本語版テキストでもそうなっています）。なお、試験等での回答は英語・日本語いずれでもかまいません。

スライドは縮小コピーしたものを授業時に配布します。不足した場合や、縮小前のものでほしい場合は講師のホームページ <http://econ.ipn.org/horii/> から Lecture Slides をダウンロードしてください。ただし、著作権の関係でパスワードを設定しています。パスワードは「
」(半角小文字)です。

評価について

成績は宿題の提出と期末試験を総合して評価します。期末試験は授業のおさらい及び宿題から出題予定です。状況に応じて中間テスト（小テスト）を実施する可能性もあります。

第4版（英語版）と第1版（日本語版）との対応

INTRODUCTION

Chapter 1. A Tour of the World → 第1章 世界経済の概観

Chapter 2. A Tour of the Book → 第2章 本書の案内

THE CORE

The Short Run (IS-LM)

Chapter 3. The Goods Market. → 第3章 財市場

Chapter 4. Financial Markets → 第5章 金融市場

Chapter 5. Goods and Financial Markets: The IS-LM Model → 第6章 財市場および金融市場と IS-LM モデル

The Medium Run (AD-AS)

Chapter 6. The Labor Market → 第15章 労働市場

Chapter 7. Putting All Markets Together. The AS-AD Model → 第16章 財市場、金融市場および労働市場の統合

Chapter 8. The Natural Rate of Unemployment and The Phillips Curve → 第17章
フィリップス曲線

Chapter 9. Inflation, Activity, and Nominal Money Growth → 第18章 インフレーション、デスインフレーションおよび失業

The Long Run

Chapter 10. The Facts of Growth → 第22章 成長の事実

Chapter 11. Saving, Capital Accumulation, and Output → 第23章 貯蓄、資本蓄積および産出量

Chapter 12. Technological Progress and Growth → 第24章 技術進歩と成長

Chapter 13. Technological Progress, Wages, and Unemployment → 第25章 技術進歩、失業および賃金

EXTENSION: EXPECTATIONS

Chapter 14. Expectations: The Basic Tools → 第7章 基本的な分析ツールとしての期待

Chapter 15. Financial Markets and Expectations → 第9章 金融市場と期待

Chapter 16. Expectations, Consumption, and Investment → 第8章 期待、消費および投資

Chapter 17. Expectations, Output, and Policy → 第10章 期待、政策および産出量

EXTENSION: THE OPEN ECONOMY

Chapter 18. Openness in Goods and Financial Markets → 第11章 財市場と金融市場の開放性

Chapter 19. The Goods Market in an Open Economy → 第12章 開放経済における財市場

Chapter 20. Output, the Interest Rate, and the Exchange Rate → 第13章 産出量、利子率および為替レート

Chapter 21. Exchange Rate Regimes → 第14章 期待と為替レートの動き、および為替レートの危機

EXTENSION: PATHOLOGIES

Chapter 22. Depressions and Slumps → 第20章 マクロ経済の病理 I 高い失業率

Chapter 23. High inflation → 第21章 マクロ経済の病理 II 高いインフレ率

BACK TO POLICY

Chapter 24. Should Policy Makers Be Restrained? → 第27章 政策決定者は制約されるべきか

Chapter 25. Monetary Policy: A Summing Up → 第28章 金融政策 要約

Chapter 26. Fiscal Policy: A Summing Up → 第29章 財政政策 要約

EPILOGUE

Chapter 27. Epilogue: The Story of Macroeconomics → 第30章 マクロ経済学の歴史